

実験工房 LUX 5M-21に第2世代シリーズ電源を搭載

第2世代シリーズ電源モジュール、BC80A22HVer、BC24M22HVer を使い、往年の名機LUX 5M-21を、21世紀の最新テクノロジーで、世界でただ一つ、倍音再生（自然界の音）の可能なパワーAMPに変身させる実験。

AES 東京コンベンション2005で技術発表した第2世代シリーズ電源を古いアンプに載せかえただけで、欠落していた音声信号すべて再生され、CDをヘッドフォンで聴いたときの音がそのままSPから再生できる。

往年の名機LUX 5M-21改造記、このAMPは1980年代にLUXのラボラトリーシリーズとして発売（¥250K）され、電源部は左右にトロイダルトランスを2個搭載、現在では考えられない贅沢な設計、第2世代シリーズ電源に改造するにはもってこいのトランスである。

従来のコンデンサ・インプット回路を使ったAMPでは音声信号の毎サイクル約600 μ s、欠落（時間軸で言うと600 μ sの立ち上がり遅れ）が存在するので、気になり、どうしても、マルチAMP用のウーハー駆動用には、第2世代電源を搭載した半導体AMPが必要なので実験を行う。

作業内容

電源整流回路部分のコンデンサーが左右で8本必要なので、現状の大きなコンデンサを取り払い。容量の少ない160V 12,000 μ Fを8本、第2世代シリーズ電源BC80A22HVer を2個、ドライブ段にはBC24A22HVer を1個、コンデンサーはニッケミ1,000 μ F 100V \times 4個とモジュールを組み込む。

試聴

聴きたくて聴きたくて、すぐにSWオン音が出たとたん予想道理ピロードのような滑らかな、吸い込まれる音色、情報量が多く、低域がしまり、高域の透明感1ランクも2ランクも上がった感じ、何百万のAMPに負けない音、音は実験工房の山水の名機AU-X11、売り出し時¥27.5万に第2世代シリーズ電源にした音と実験工房 SONY TA-N86第2世代とも区別が出来ない音になっている、第2世代シリーズ電源に改造すると高額AMPも中級機も差がなくなる。

新しい発見

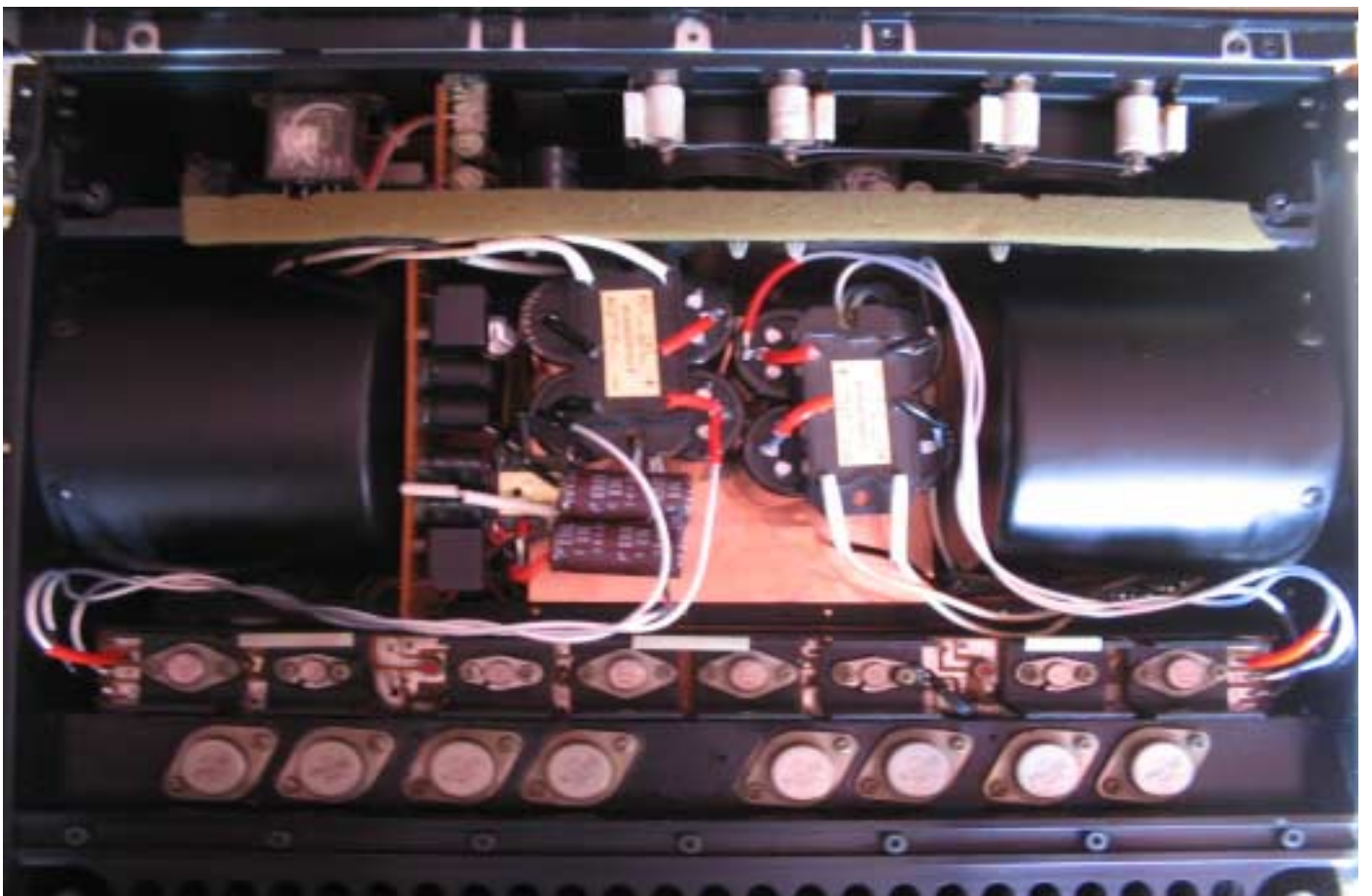
究極の電源、第2世代シリーズ電源に改造すると、山水、LUX、SONYの音の区別がつかなくなる、完璧なDC電源になると、パルスの音声信号はAMP内の差はあまりなく、従来の電源ではいろいろな音色が電源で付加され、各社の音色になっていたのではないか。

究極のAMP音は、入力信号（パルスの音声信号）は同じなのでAMPの出口の音は同じになって当たり前なのでは？

と思える感じがしてきました。



LUX 5M-21 大きな60V 15,000 μ Fを取り外し、小さなコンデンサ8本に置き換える。



ドライブ段 BC24A22HVer モジュールと100V 1,000- μ のコンデンサ